

会長就任挨拶

全日本中学校長会会長 山本 聖志



ただいま、全日本中学校長会第四代会長として御承認いただきました、東京都豊島区立千登世橋中学校長山本聖志でございます。新役員を代表いたします。一言御挨拶申し上げます。

本日ここに、皆様の御承認をいただき大役を仰せつかりましたことは、身に余る光栄でございます。何分、微力であり、若輩ではございますが、全国の公立中学校長によって構成される本会の目的を達成するため、全力で、会長としての責務を果たしてまいる所存でございます。どうぞよろしくお願いたします。

この一年間、全日本中学校長会のために御尽力いただきました直田益明会長をはじめ、副会長、理事、そして幹事の皆様、本当に有り難うございました。また、お疲れ様でございました。昨年度、中学校教育七〇年記念東京大会を成功裏に終了することが出来ました。全国の会員の皆様から御協力を賜りましたことに心より感謝を申し上げる次第です。

今年は一〇年に向けた最初の一年となります。そのスタートにあたり、改めて、本会の意義、目的を確認してまいりたいと思います。

昭和五十二年五月に制定された「全日本中学校長会綱領」は、冒頭、次の様な言葉で始まっています。「われわれは、校長の使命に徹し、結束して中学校教育の振興に努め、もって国民の信託に応える。」「使命に徹する。」「結束する。」「中学校教育の振興に努める。」「国民の信託に応える」とありますように、我々、中学校長に課せられた使命が端的に表現されております。また、全日本中学校長会会則の第二条には「本会は、全国各都道府県中学校長会相互が緊密な協調を保ち、中学校教育の振興を図り、国家社会の発展に寄与することを目的とする」と明記されています。仮に崇高な使命感が個々にあっても、緊密な協調がなくては、中学校教育の振興及び国家社会の発展に寄与することは出来ません。さらに、会長の役割について、会則第一〇条には、「会長は本会を代表して会務を統理する」とあります。「統理」が意味するところの、まとめること、治めることについては、甚だ僭越な部分もございますが、全国中学校教育の充実・発展を図り、各都道府県校長会との連携を図りながら、先に申し上げました目的達成に向けて尽力してまいりたいと存じます。是非とも、副会長はじめ各理事の皆様、部長及び幹事の皆様、そしてすべての会員の皆様のお力添えを、心よりお願い申し上げます。ここで、当面、全日本中学校長会として取り組んでまいりたいと考えていることを三点述べさせていただきます。

一点目は、新学習指導要領の円滑な実施に向けた取組です。昨年三月の告示を受け、全国の各中学校では現在、移行措置期間の取組が始まっており、全面実施に向けた準備にも余念のないことと存じます。

これからの時代は、予測不能の時代と言われています。既に、知識基盤社会の到来、情報通信技術の急速な進歩、社会・経済のグローバル化など、社会状況は劇的な変化を遂げています。一方で、少子化の傾向が加速し、学校の統廃合や小規模化によるカリキュラム実施上の困難さをもたらし、超高齢化の進行は、様々な分野における構造的な改革を突きつけています。こうした時代状況を踏まえた、パラダイムの変換を果たすため、学習指導要領の趣旨を教育課程の中に着実に落とし込み、円滑な実施を果たすことが私たち校長会の役割として重要です。道徳の評価への対応や教職員定数の改善など、取り組むべき課題も数多くあります。私たち全日中は、これまで、学習指導要領の策定に当たり、大きな役割を果たしてまいりました。その役割を継承し、学校からの教育改革を更に推進することをもって、国民の信託に応えてまいりたいと考えます。

二点目は、学校における働き方改革への対応です。昨年六月、教育再生実行会議から第一〇次となる提言が示されました。学校、家庭、地域の役割と責任、社会全体で子供を育むことの必要についてふれながら「しかしながら、今日の学校教育の現場に目を向けると、教師の多忙化が頂点に達しようとしています。」と言及しています。教員の仕事は「多忙」なのは事実です。しかし、学校を取り巻く状況は、全く予断を許しません。働き方改革を条件整備の面で捉えるのか、意識改革の面で捉えるのかによって、方向性はやや異なるものと思いますが、多忙化している事実を捉えながらも、多忙感に打ちひしがれる教員が出ないよう、制度設計を含めしっかりと見つめていくことが肝要です。そして、働き方改革の行く先が、結果として、全ての生徒の輝く未来につながるよう、引き続きこの問題について、現場感覚、現場発信の視点から取り組んでいく必要があると考えております。

三点目は、「全日中教育ビジョン」の推進です。全日本中学校長会が全日中教育ビジョン「学校からの教育改革」を提示・公表したのは、平成二十一年十月のことでした。以来、二度の改訂を踏まえ今日まで来ております。このビジョンについては、全国の中学校長会が一斉に取り組むことに大きな意味があります。理念にとどまることなく、着実に推進を図り、達成の度合いを検証していく必要があります。

ビジョンの検証や評価の手法の一つに、全日中の各々が毎年実施している調査があります。この調査による結果は、教育ビジョンが示した目標に対して各学校が取り組んだ成果を表すとともに、教育諸条件の整備の根拠となるものです。今年度も全国各都道府県の中学校長会と緊密な連携を図り、全日中教育ビジョンの具現化に取り組んでまいるとともに、今後の改訂時期の在り方や内容について検討してまいります。

中学校教育を巡る課題の中には、全国に共通のものもあれば、各地区・自治体ごとに個別の課題があります。東日本大震災や熊本における地震被害など、甚大な被害を被った災害の教訓を決して忘れず、後世に残すことについて、私たちには記憶の風化の防止に取り組む義務があります。全日中が力を結集して進む道は、我が国の中学校教育の過去に足跡を残すとともに、未来を切り拓きます。今後とも、各地区の校長会や事務局と連携し、全国の会員の英知を結集して取り組んでまいろうではありませんか。

結びになりますが、本会の充実に向け、これまでの歴代会長はじめ諸先輩方が築かれ継承してこられましたことを受け継ぎ、「実践もあり理論もある有言実行の教育の実践的専門家集団」としての役割を果たすため、全日本中学校長会長として皆様とともに歩んでいくことをお誓い申し上げ、就任の挨拶といたします。